



論文審査及び最終試験又は学力の確認の結果の要旨

<p>①・乙</p>	<p>氏名</p>	<p>福岡 理英</p>	
<p>学位論文名</p>	<p>Inconvenience of Living Place Affects Individual HbA1c Level in a Rural Area in Japan: Shimane CoHRE Study</p>		
<p>学位論文審査委員</p>	<p>主査 副査 副査</p>	<p>大野 智 土屋 美加子 竹下 治男</p>	 
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>糖尿病は世界的に増加し続けている生活習慣病である。糖尿病のリスク因子は様々明らかになっているが、近年、住居環境を取り巻く社会地理的因子が指摘されるようになった。我々は、中山間地域において、居住地の標高が血糖コントロールに影響を与えると仮説を立て、居住地の標高とHbA1cとの関係を明らかにすることを研究目的とした。2012年にA市で行われた特定健診を受けた1,039名に研究依頼をし、書面による同意の得られた1,016人を調査の対象とした。居住地の標高、医療機関および食料品店までの距離は、地理情報システムを使用して、実際の道路状況に基づいて推定した。線形回帰分析の結果、HbA1cは、他の潜在的な要因を調整した後でも、居住地の標高と有意に関連(正の相関)していた。また、標高と不便さのパラメータである最寄りの医療機関までの距離においても正の相関がみられ、一方、最寄り食料品店までの距離では負の相関がみられた。この結果を踏まえ、不便さの代替変数として、標高の代わりに居住地から医療機関までと食料品店までの距離を入れて分析を行った結果、二次医療機関までの距離のみがHbA1cと有意に関連(正の相関)していた。本研究結果から、居住地の標高は、不便さを介して、住民の血糖コントロールに影響を与えている可能性が示唆された。</p> <p>本研究は、標高という新たな地理的要因が、居住者の血糖コントロールに影響する可能性を示したユニークな研究であり、中山間地域における生活習慣病予防に新たな知見を加える、意義ある研究である。</p> <p>最終試験又は学力の確認の結果の要旨</p> <p>申請者は中山間地域における居住地の標高とHbA1c値との間に正の相関があることを観察研究(横断研究)にて明らかにした。また、居住地から二次医療機関までの距離とHbA1cとの間にも正の相関があることも統計解析にて示し、住民の血糖コントロールへの意識との関連について考察した。発表及び質疑応答は的確で関連知識も豊富であり、研究成果を踏まえた今後の研究実施における仮説についても言及できており、学位授与に値すると判断した。</p> <p style="text-align: right;">(主査 大野 智)</p> <p>申請者は、特定健診と地理情報システムのデータを用いて居住地の標高とHbA1cとの間に関連があることを示し、居住地の標高が不便さを介して血糖コントロールに影響を与えている可能性を示唆した。関連分野の知識も十分であり学位授与に値するものと認める。</p> <p style="text-align: right;">(副査 土屋 美加子)</p> <p>申請者は、所属する講座の大規模調査研究のデータを基に、標高という地理的要因が居住者の血糖コントロールに影響を及ぼす可能性を提示した。中山間地域における生活習慣病予防における貢献の一助として有意義な研究であり、審査時の質疑応答も適切で、学位授与に値すると判断した。</p> <p style="text-align: right;">(副査 竹下 治男)</p>			

(備考) 要旨は、それぞれ400字程度とする。